

次世代IPネットワーク推進フォーラム IP端末部会会合(第1回) 議事録

日時:平成19年11月8(木) 10:00~11:40

場所:KKR ホテル東京(竹橋) 11階 白鳥の間

出席者

IP 端末部会長 相田仁(東京大学大学院) 他 40 名程度

総務省

電気通信技術システム課 竹内課長、菱沼企画官、山下補佐、長屋係長、安中係員

事業政策課 中村補佐

データ通信課 柳島企画官

コンテンツ振興課 飯村補佐

通信規格課 川崎係長

事務局

情報通信研究機構 伊藤グループリーダー、大堂主任研究員

配付資料

資料1 - 1 次世代IPネットワーク推進フォーラムIP端末部会設置要綱(案)

資料1 - 2 次世代IPネットワーク推進フォーラムIP端末部会構成員名簿

資料1 - 3 「IP化時代の通信端末に関する研究会」報告書概要

資料1 - 4 次世代IPネットワーク推進フォーラムIP端末部会活動方針(案)

資料1 - 5 ワーキンググループの設置について(案)

資料1 - 6 ワーキンググループへの参加について(案)

資料1 - 7 通信端末検証テストベッドの実現に向けた課題と方策について

資料1 - 8 IP化時代通信に於ける責任分担模範の検討

議事内容:

1. 開会 [事務局]

2. 総務省挨拶[竹内課長]

ネットワークのIP化が急速に進んできており、今年度上期にはNGNのサービスが開始される。NGNになるとネットワークと端末の役割が変わり、多様な端末が出てくるのが想定される。それに対し、マルチベンダー環境での相互接続検証、あるいはマルチキャリア間でのエンドエンド接続の方法、様々な機能を端末にダウンロードすることで高度化していくような新たな使い方といった点について、サービス開始に先立ち技術基準やその認定方法など、様々な対応をまとめていく必要がある。産学官の集ま

りであるフォーラムの中に新たに設置された本部会で、関係者で問題意識を共有し、対応の方向性をご議論いただきたい。そこで出てきた対策については、業界のガイドラインの策定や省令改正に繋げていきたいと考えているので、それぞれの立場で積極的にご議論いただきたい。

「IP時代の通信端末」(資料配布なし)に基づき、問題意識について説明。

3. IP 端末部会長挨拶[相田部会長]

PSTNの時代はものの切れ目と機能の切れ目がはっきりしていたが、IPの時代となりいろいろなソフトがダウンロードされる、あるいは端末とネットワークが役割分担する。何かトラブルが生じた際に問題点がどこにあるのかわかりにくくなる。NGN時代に誰でも安心してネットワークを利用するために、事前に何をすればよいか、また問題発生時にどのような対処をすればよいか重要になってくる。IP 端末部会の議論を通じて、誰でも安心して利用できるネットワークを実現していきたい。

4. 配布資料確認

事務局により、配布資料の確認がなされた。

4. 議事

(1) IP 端末部会設置要綱について

資料 1-1、資料 1-2 に基づき 事務局より説明。

決定事項:

IP 端末部会設置要領(案)について承認された。

(2) IP 端末部会の活動方針について

資料 1-3 に基づき、IP 化時代の通信端末に関する研究会報告書の概要について、資料 1-4 に基づき、IP 端末部会活動方針(案)について、資料 1-5 に基づき、WG 設置について、総務省菱沼企画官より説明。

質疑応答:

質問: IPTV フォーラムでもネットと端末の標準化の議論が行われており、重複のない活動をお願いしたい。また、特に責任分解点の議論について、ビジネスモデルとの関係はどのような扱いになるのか。

菱沼係長: 既存の IPTV フォーラムにおいて既に検討されているものについては重複した議論は避けたい。IPTV フォーラムにおいて、テレビだけでなく電話やパ

ソコンなどの IP 端末に広く応用できるようなものであれば、その成果を本部会でもご説明いただき、それを踏まえて検討を進めて頂きたい。ビジネスモデルとの関係については、本部会は広く関係者に参加していただくものなので、ビジネスモデルに留まるものでなく、技術基準、技術条件、標準化、認証制度、ガイドラインを含め広く関係者横断的に検討を行って頂きたい。

相田部会長：前者については次世代 IP ネットワーク推進フォーラムにもホームネットワーク WG があり、内部でもタイアップが必要であるが、IPTV フォーラムともタイアップし、効率的に検討を進めていきたい。また、後者については責任分担のあり方を考える場合には、ビジネスモデルを念頭に置いた議論が必要となる。

決定事項：

IP 端末部会の活動方針について、および 2 つの WG 設置について承認された。

(3) ワーキンググループ(WG)の設置および WG リーダーの指名

相田部会長より開発推進 WG リーダーに成蹊大学 村上仁己先生を、責任分担モデル WG リーダーに中央大学 平野晋先生が指名された。

決定事項：

- ・ 開発推進 WG リーダーは、村上仁己先生(成蹊大学)に決定した。
- ・ 責任分担モデル WG リーダーは、平野晋先生(中央大学)に決定した。

(4) ワーキンググループの参加について

資料 1-6 に基づき、事務局より説明。

質疑応答：

特になし。

(5) プレゼンテーション

「通信端末検証テストベッドの実現に向けた課題と方策について」

資料 1-7 に基づき、HATS 推進会議 HATS 実施推進部会長高呂様よりご講演。

「IP 化時代通信に於ける責任分担模範の検討」

資料 1-8 に基づき、平野 WG リーダよりご講演。

質疑応答：

質問(相田部会長):

後からソフトがダウンロードできる場合に、どの時点でどのように検証すればよいのか。これまでは、認定マークを一度取得すればそれでよかったが、このあたりの考え方も複雑になるのではないか。

回答(高呂委員):これについても様々な意見があり、どれがいいというものはない。認定マークを利用者が取りにいくのか、更新依頼がくるのか、配布するのか、という点についてはセキュリティとの関係もあるので、今後検討が必要な課題である。

質問(可知委員):相互接続に関する議論はこれまでも行われてきたが、なかなかうまくいっていない。TTC の標準もできているが解釈の仕方が様々あり、標準に従っても接続がうまくいくとは限らない。その一方で新しい標準も出てきているので、標準化の議論にあたっては、関係者の団結した議論が必要である。これについてどのような打開策を持っているのか。

回答(高呂委員):確かにうまくいかない場合はある。バンドワイド的な問題に関しては ITU や IETF に改定を依頼する方法や寄書でコントリビュートする方法がある。また、日本国内の問題でワールドワイドに取り扱う必要のないものについては、TTC ドキュメントで対応する方法がある。ドキュメント化するまでもない場合には、ガイドラインで取り扱い方法を示す方法もある。このように検討は、誰でも端末を作って売れるようにという方向で行われている。

質問(可知委員):こういった第三者的機関ができたことで、国内標準が世界標準になっていくことが日本の国益につながるので、頑張っていたきたい。

相田部会長:携帯電話が代表的なものであるが、日本の標準でつくったものが海外で利用できない場合が出てくる。パソコンにソフトだけ入れて端末として利用できるようになると、開発当初の利用範囲の変化に対応できない場合も出てくることもあり、このあたりを含め部会では検討していただきたい。

(6)その他

次回の予定について

- ・ 来年 3 月を目処に開催を予定している。具体的な日程については、各 WG での検討状況を踏まえ、後日連絡する。

5. 閉会[相田部会長]

以上